

今年2度目の事前通告なしのオスプレイ飛来に抗議

連合北海道は、9月15日に米空軍のオスプレイ1機が、事前通告もなく航空自衛隊千歳基地に着陸したことを受け、北海道と防衛局に対し、事前通告なしのオスプレイ飛来が常態化とならないよう要請した。

連合北海道をはじめとする市民団体は、墜落事故を繰り返すオスプレイの飛行に強く反対してきており、8月4日のオスプレイ飛来に対しても強く抗議してきたものの、度重なるオスプレイの飛来に対して再度申し入れを行った。

昨年、岩国基地では、山口県や岩国市からの要請を受け、事前の離着陸予定と事後の目視状況の情報が提供されていたが、中国四国防衛局は「米側からの情報提供が途絶えた」と説明し、事前連絡のないオスプレイ飛来が相次いだ。また、北関東防衛局でも、横田基地周辺の自治体に「目視活動と離着陸回数の情報提供を終了する」と通告しており、北海道においても、今後、事前通告なく飛来することが常態化しないよう強く抗議するとともに、一時的に着陸した目的を明らかにするよう要請した。

北海道防衛局からは、一時的に着陸した目的については「米軍の運用に関わることであり、お答えすることができない」との回答を受けた。連合北海道は、市民の関心が高く、また、不安を感じているものにも関わらず、市民より米軍の地位が優先されていることに強い憤りを感じるとともに、情報の公開と市民が反対していることを米軍に訴え続けることを改めて要請した。



北海道要請（9月25日）

道民の暮らしが脅かされるなど、さまざまな問題を抱える日米地位協定の抜本的見直しと度重なるオスプレイの飛来に強く反対する。



北海道防衛局要請（9月18日）

北海道からは、北海道防衛局に対する事前の情報提供と安全配慮について申し入れを行ってきたことの回答を受け、連合北海道からは引き続きの働きかけを求めた。

連合北海道は、北海道の大地が米軍基地として使われ、北海道の空を米軍が自由に飛び回り、北方領土問題の早期解決とは裏腹に隣国ロシアを刺激し、